

建築構造力学演習 A Exercises in Structural Mechanics A
---

教員名	甲津功夫 (こうず いさお), 多田元英 (ただ もとひで), 向出静司 (むかいで せいじ)								
教員連絡先 (研究室所在地・TEL)	吹田キャンパス S 1 棟 7 階 7 2 5 室 電話: 06-6879-7653								
E-MAIL アドレス	mukaide@arch.eng.osaka-u.ac.jp								
履修対象	建築工学コース (2 年次)								
単位	2	セメスター				4			
受講条件	構造力学基礎, 構造力学基礎演習を修得していることが望ましく, 建築構造力学 A を履修していること.								
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築構造力学 A の講義内容について, 演習問題を解くことによって理解する.								
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H	
		○		◎	○				
授業計画・概要	テーマ	概要						学習・教育目標	
	静定ラーメン (4 回)	静定ラーメンの曲げモーメント分布とせん断力分布を解析するための基本的な知識を身に付ける (包括 4 回)						B D	
	断面内応力度の合成 (3 回)	軸力と曲げモーメントを受ける断面の軸方向応力度分布を計算するための基本的な知識を身に付ける (包括 1 回). 更に, 軸力と曲げモーメントの相関関数を得るための専門的な知識を身に付ける (高度 2 回).						B D E	
	部材の伸びとたわみ (3 回)	曲げを受ける部材のたわみを計算するための基本的な知識を身に付ける (包括 2 回). 更に, 弾性曲線式やモールの定理を用いた計算についての専門的な知識を身に付ける (高度 1 回).						B D	
	簡単な不静定構造物 (2 回)	1 次不静定構造物を対象に, 応力分布と変形を求めるための専門的な知識を身に付ける. (高度 2 回)						B D	
	仮想仕事の原理 (3 回)	仮想仕事の原理を用いた計算をするための基本的な知識を身に付ける (包括 1 回). 更に, 構造物を解析するための専門的な知識を身に付ける (高度 2 回).						B D	
教科書	中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」								
参考図書・文献等	中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 II」								
成績評価方法・評価基準	D, E については, 演習レポートで評価する (80%). B については, 出席態度により評価する (20%).								
オフィスアワー	随時 e-mail にて対応								
コメント									